

令和3年度（2021年度）

# 第61回大会

男子優勝：海星学院 女子優勝：札幌光星

## 【全道大会寸評】

昨年は新型コロナウイルス感染症のため大会が中止となりました。今年度も北海道には緊急事態宣言が発令中でありましたが、第61回となる北海道高等学校テニス選手権大会は、6月7日から10日の4日間、旭川市花咲スポーツ公園テニスコートで2年ぶり開催されました。感染症対策を出来るものはすべて行い、出場選手と大会関係者のみが会場に入場できるかたちで、例年よりはかなりさみしく感じる中の開催ではありましたが、天候にも恵まれ、予定通りの日程で行うことが出来、選手は最後まで力を振り絞ってプレーしていました。大会を通して、当番校の旭川永嶺高校の教職員や生徒のみなさんが、大会運営から感染症対策まで細心の注意をはらっていただき、そのご尽力のおかげで、無事大会を終えることができましたことを、心から感謝申し上げます。

今年度の大会は、男子では例年札幌の選手を中心に行われていることが多いのですが、全く違いました。団体戦も個人戦も、室蘭支部代表の海星学院高校と十勝支部代表の帯広北高校が素晴らしいプレーの連続で、その中心にいました。団体戦では、3年生の小笠原陸選手を中心とした海星学院高校が、1セットも失うことなく初優勝を成し遂げました。個人戦のダブルスでも海星学院高校の小笠

原・松田組が優勝、男子シングルスでも、決勝戦は海星学院高校の小笠原選手対池田選手の対戦となり、常に海星学院の選手がその中心にいました。小笠原選手は準決勝の帯広北高校の松本選手との対戦では、常にリードを許す厳しい展開でしたが、最後タイブレークを勝ち切り、決勝も序盤リードを許しましたが、7ゲーム目で逆転し、その後は再び安定感のある力強いストロークを武器に見事優勝し、3冠達成で、輝かしい快挙となりました。小笠原選手と競り合った海星学院高校も帯広北高校も2年生であり、この後の活躍が期待できる選手たちです。

女子の団体戦ですが、2年前のこの大会でも活躍した札幌光星高校が、こちらでも1セットも失うことなく安定した戦いぶりで2大会連続の優勝と成りました。女子も札幌支部以外の学校が活躍しました。団体戦で男女通じて唯一ベスト4に公立学校で進出した帯広柏葉高校ですが、メンバー2名の1年生の今後の活躍も楽しみです。個人戦ダブルスは宮川・駒目組が、大会を通して1ゲームしか失うことなく、抜群の安定感で優勝しました。シングルの決勝も危なげなく勝ち進んできた、宮川選手と駒目選手の対戦となりました。決勝戦はお互いが存分に力を発揮した好試合となりましたが、札幌支部大会での決勝の敗戦

を糧に、初優勝が掛かる重圧の中でも、粘り強いプレーで、冷静に対応し、悲願の優勝を果たしました。また、今年度は2年前の全国大会で札幌啓成高校の照井さんが優勝を勝ち取ってくれたため、女子シングルの代表枠が5となり、激しい5位決定戦が行われました。

今大会は、団体戦と個人戦を合わせて6校が全国大会の切符を手に入れました。

長野県松本市での全国高校総体は、コロナ禍の大会となり、非常に厳しい戦いとなることが予想されますが、団体戦個人戦ともに上記各選手の全国高校総体での活躍を期待します。

(道専門委員長 川口 浩史)

### 【全国大会寸評】

2年ぶりの全国高校総体は「走れ 北信越の大地を とべ 北信越の大空へ」をスローガンに、松本城を中心とする旧城下町、信州松本で開催された。歴史的建造物が多く残り、また、周囲を2,000~3,000m級の山に囲まれた松本市。浅間温泉庭球公園20面、車で1時間ほど移動する松本平広域公園信州スカイパーク庭球場8面・同公園内やまびこドーム8面と計36面(全て砂入り人工芝)、代表たちの活躍のステージは用意された。

一週間にわたる競技は、団体戦から開始された。男子代表の海星学院(室蘭支部)は初出場。初戦となる2回戦の相手は長崎県代表海星。1回戦を勝ち上がり動きの良い相手に<sup>けお</sup>気圧されることなく序盤のゲームを連取し、そのまま勝ち切ったダブルスの池田・松田ペア。終盤までサービスゲームキープの戦いに、ワンチャンスをつかんだシングルス1の小笠原。2-1(D:8-4,S1:8-6,S2:4-8)で全国初勝利をあげた。3回戦の相手は強豪名経大市邨(愛知)。エースをダブルスに組んだ相手オーダーに小笠原も意地を見せ、前日硬さの見たシングルス2櫻田も良いゲームの入りを見せたが2-0(D:1-8,S1:5-8,S2:2-1打切)で敗戦となった。

女子代表は、札幌光星が3年連続(去年は大会中止)団体出場。初戦(2回戦)は、地元長野県代表長野日大。落ち着いた戦い、地

力を発揮し3-0(D:8-5,S1:8-2,S2:8-0)で完勝。3回戦は、南の名門沖縄尚学戦。D田中・鈴木ペアは巧みな相手ペアに、S1宮川は相手エースのミスの少なさに0-2(D:0-8,S1:4-8,S2:0-0打切)で終戦となった。

個人戦男子シングルスは、代表4名全員が初出場。うち3名(海星・帯北2名)は初戦敗退となったが、全員2年生。今後の奮起が期待される。残る小笠原は、1・2回戦をともに6-1で勝ち上がり、3回戦へ挑む。相手は、埼玉県代表小泉(浦和麗明)。序盤、対等な立ち上がりを見せたが、ミスから相手に流れを掴まれ2-8で3回戦敗退となった。なお、相手の小泉は、この後快進撃を続け優勝旗を受けた。男子ダブルスは、2ペアともに3回戦まで進出。観野・松本(帯北)は、6-3、6-4と1・2回戦を勝ち上がり、3回戦は準優勝ペアに4-8と惜敗。小笠原・松田(海星)は、1・2回戦ともに6-3で勝利。強豪相生学院(兵庫)が相手となった3回戦。最後までつれる好ゲームとなったが、惜しくも7-9で敗退。両ペア共にBest16と、まずまずの結果を残した。

個人戦女子シングルスは、一昨年の快挙により代表枠は5。残念ながら、体調不良により1名選手変更となったが、宮川・駒目(光星)上田(北海)松本(札西)の4名が初戦を突破する健闘を見せた。中でも、宮川は1・

2・3回戦を6-1, 6-2, 8-3と勝ち進み、Best8をかけた4回戦。しかし、第1シードを破って勝ち上がってきた平田（白鳳女子・神奈川）の勢いを止められず4-8で敗退。ダブルスは、初出場の北科大ペアは1回戦敗退（3-6学館船橋）。宮川・駒目ペアは3回戦進出、Best16と健闘を見せた。

新型コロナウイルス対策と熱中症対応で、受け付け方法、審判の体制や試合形式が例年

と異なった今大会。団体戦の1・2回戦は8ゲームプロセット、個人戦1・2回戦は1セットマッチ（6ゲーム先取）、3回戦は8ゲームプロセットで行われた。どこのチームにとっても調整の難しい状況であったが、これがスタンダードになることを視野に入れ、更に、全国で勝ち抜くことを目標にチーム作りを望む気持ちが強くなった大会であった。

（全国常任委員 長永 勝利）

全国高校総体 [ 令和3年度 全国高等学校総合体育大会テニス競技  
第111回全国高等学校テニス選手権大会 ]

長野県松本市

（輝け君の汗と涙 北信越総体2021）

8月1日～8日 松本市浅間温泉庭球公園  
長野県松本平広域公園信州スカイパーク庭球場  
長野県松本平広域公園やまびこドーム

<男子>	優 勝	<女子>
四日市工業（三重）	： 団 体 戦 ：	岡山学芸館（岡山）
小泉 熙毅 （埼玉：浦和麗明）	： 個人戦シングルス：	丸山 愛以 （三重：四日市商）
菅谷 優作・有本 響 （神奈川：慶應義塾）	： 個人戦ダブルス：	内島 舞子・西 飛奈 （神奈川：白鵬女子）